

【6】 考察と今後の課題

本年度は、題材選定と支援の工夫を視点にした授業づくりから、めざす生徒像にアプローチしてきた。この実践をとおして、徐々にではあるが生徒の行動に変容がみられるようになった。変容ととらえられる例は、次のようなものである。

- ・平素自主的に取り組むことの少ないC男が、「クラスの友だちとボーリングに行こう」という単元では、自分の意見を述べ、資金作りのためのバザーの準備に自ら居残り活動を申し出て、意欲的に学習に取り組んだ。また学習発表会では、客席によく聞こえるはきはきした声で劇のせりふを言い、他の生徒の模範となった。
- ・休憩時間に、音楽を聴いたり踊ったりして楽しむグループができてきた。最初は教師の働きかけがきっかけであったが、次第に生徒の自主的な活動になり、学年の枠を越えた同好のメンバーが集い、自由に楽しく過ごしている。
- ・O男やU男は、選択学習におけるパソコン・ワープロコースでの学習を生かし、担任から学習や児童生徒会活動に使う資料の入力を請負っている。頼られる喜びと責任感で、意欲的である。

このように変容の兆しが認められる一方で、次のような課題も明確になってきた。

① 個々の生活を楽しむ姿をより具体的にとらえる

主体性や自己決定といった「生活を楽しむ」キーワードになる言葉は、それなりに意識して指導にあたっているが、その学習の中で個々の生徒につけたい力や、楽しむ姿が具体的に指導者にとらえられていないため、生徒に学習の成就感を与えきれていない。さらに綿密な個別の指導プログラムを組み、個に応じた支援を模索していきたい。

② 題材を精選する

今年度は教育課程の核ともいえる生活一般の題材を、本テーマに即して見直すことができず、従来題材をテーマに関連づけて指導してきた。来年度はテーマに沿った題材選定を意図し、少しでも効果的な題材の配置を考えたい。

③ 評価の方法を工夫する

「生活を楽しむ」という研究テーマが、生徒の内面的な高まりをめざすものであるために、ややもすれば実践の成果を、雰囲気的なもので評価してしまいがちである。①の課題にも通じるが、本テーマへの取り組みを通して、生徒一人ひとりがどう育っているのかを確かめる評価法を検討したい。

こうした課題を軸に来年度はさらに実践を深め、めざす生徒像により近づきたい。

(出協)